

風評問題のメカニズムとその対策

関谷直也

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任准教授
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 客員准教授

naoya@iii.u-tokyo.ac.jp

関谷直也の自己紹介

■所属

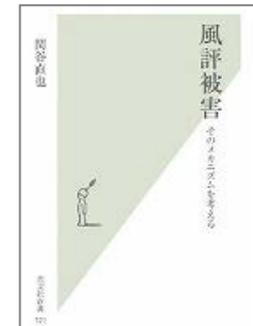
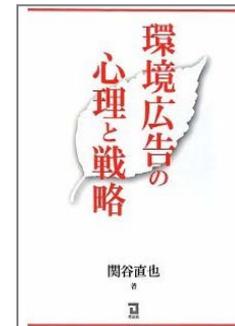
- 東京大学総合防災情報研究センター特任准教授
- 福島大学つくしまふくしま未来支援センター客員准教授

■専門分野

- 社会心理学(災害情報・環境情報の社会心理)、広告・広報

■研究テーマ

- 避難行動、災害情報、災害情報システム・サイネージ
- 災害時の心理、災害文化、流言・パニック、風評被害
- BCP(広報、企業の災害対応)、社会経済的影響
- JCO臨界事故、柏崎・刈羽原発、福島原発事故の避難行動



関谷直也の自己紹介

委員など

- 東京電力福島原子力発電所事故検証委員会政策・技術調査参事(政府事故調)
- 新潟県原子力対策課「複合災害」対策検証委員会
- 東京電力福島原発事故損害賠償被害調査委員会
- 日本災害情報学会東日本大震災調査団・団長

- 2010年 気象庁「東海地震に関連する情報の理解促進のための検討会」委員
- 2011年 資源エネルギー庁「災害時における石油・ガスの安定供給」
- 2012年 気象庁「降灰予報の高度化に向けた検討会」委員
- 2012年 気象庁「防災気象情報の改善に関する検討会」委員
- 2013年 内閣府「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」検討会委員
- 2014年 気象庁「火山噴火予知連絡会 火山情報の提供に関する検討会」委員
- 2015年 内閣府「噴火時等の避難計画の手引き作成委員会」
- 2015年 国土交通省「水害ハザードマップ検討委員会(ハザードマップ作成の手引き)
- 2015年 国土交通省「高潮水防の強化に関する技術検討委員会」
- 2016年 内閣府「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」検討会委員
- 2016年 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会

1 風評被害の定義

風評被害とは……

- **安全が関わる社会問題**
(事件・事故・環境汚染・災害・不況)が報道され、
- **本来『安全』とされる**
食品・商品・土地・企業を人々が危険視し、
- **消費や観光をやめることによって引き起こされる**

……**経済的被害**

- ✓ 1954年 第五福龍丸被爆事件
- ✓ 1981年 敦賀原子力発電所事故
- ✓ 1997年 ナホトカ号重油流出事故(三国町)
- ✓ 1999年 「ニュースステーション」ダイオキシン報道、JCO臨界事故

1 うわさ・JCO臨界事故の流言

JCO臨界事故

- **コミュニケーションの活発化(流言・うわさ)**

- 「旅行時の嫌がらせ(宿泊拒否、白眼視)」流言
- 「婚約破棄」うわさ話

- **風評被害はうわさによる被害ではない**

- **うわさ**は関心の強い、不安を感じる人の間で流れる
- **風評被害**は関心の低い人、危険視する人によって引き起こされる
 - ※ 自分が被害者に含まれる

「大変そう」「危ないかもよ」
関心低い
コミュニケーション不活発
「そーいや事故あったな」

地元でない人/関係者でない人

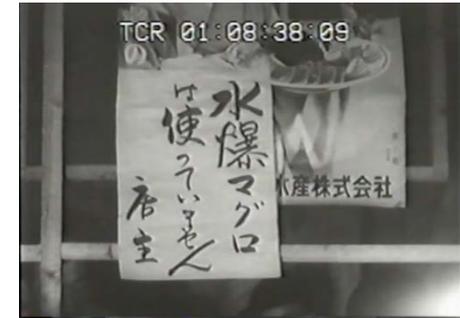


不安!
関心強い!
コミュニケーション活発



2 風評被害と原子力 第五福龍丸被爆事件

原子力損害賠償法と風評被害



- **第五福龍丸ビキニ水爆被爆事件**
 - 1954年3月1日米国がマーシャル諸島で水爆実験
 - 立入禁止区域内のビキニ海域で操業していたマグロ漁船・第五福龍丸に放射性降下物により乗組員が被曝症状
- **第五福龍丸ビキニ水爆被爆後の放射能パニック**
 - 日本各地で放射性降下物が確認された。
 - これらが大々的に報道され、マグロを始めとする魚介類全般が売れなくなるという「放射能パニック」が発生。
- 1956年3月外務・農林水産委員会連合審査会質疑
 - 「間接損害」という風評被害を国家予算として初めて認めた。

2 風評被害と原子力 原子力船「むつ」

原子力船「むつ」事故

- 1974年8月原子力船「むつ」放射線放出事故
 - 青森県大湊港を出航した直後、尻屋崎沖で放射線放出事故。
 - ホタテで約100億の被害
 - 人体に影響のある放射線・放射能の放出はなかったとされる
- 1981年「むつ」回航に際した民事協定、申し入れ
 - 青森県知事科学技術庁長官への申し入れ 「漁価安定基金」
 - 「『むつ』の大湊港受け入れに際し、漁業者の間に不安があるので、**風評による魚価低落に備えた魚価安定対策の充実**及び漁業振興対策に格別の配慮を賜りたい。」

2 風評被害と原子力 原子力損害賠償法

原子力損害賠償法と風評被害

— 原賠法第二条二項

「核燃料物質の原子核分裂の過程の作用又は核燃料物質等の放射線の作用若しくは核燃料物質によって汚染された物の毒性的作用」

— 「むつ」事故後、放射線によらない食品・商品の損害が原賠法では補償されない → 漁業者、関係者にとって大問題

1983年自民党「原子力船を考える会」 原子力船事業団理事・堀純郎発言

「ちょうど原子力船『むつ』の出力試験をやろうとして、反対を受けて地元折衝をしているころの話ですが、最後に残った問題が原子力船のために、事実無根の風説によって、魚価がさがったらどうしてくれるかということでした。これに対して原子力で損害をあたえれば、原子力損害賠償法がございまして、これによって救済できますが、事実無根の風説で魚価が下がったとき、救済する方法はございませんので、10億円くらいの金を見せ金すれば話がつきそうになったのでございます」(倉沢 1988)

2 風評被害と原子力 原子力損害賠償法

1986年2月北海道電力泊原発安全協定

◆「泊発電所周辺の安全確保及び環境保全に関する協定書」

(風評被害に係る措置)

第16条 丙(北海道電力)は、発電所の保守運営に起因する風評によって、生産者、加工業者、卸売業者、小売業者、旅館業者等に対し、**農林水産物の価格低下その他の経済的損失(以下「風評被害」という。)**を与えたときは、補償など最善の措置を講ずるものとする。

- 「**事実上の損害**」と「**風評による損害**」は区別されている。
- **第15条「発電所の保守運営に起因して地域住民の健康、農林水産物その他の財産等に被害を与えたとき」と損害の賠償は別。**

2 風評被害と原子力 ■もともとの意味

■「原子力に関する農業・漁業・観光の経済的被害」

- ① 1950年代ビキニ被災後の水爆パニック
- ② 1981年敦賀原発事故
- ③ 1982年青森での『むつ』回航に関わる問題
- ④ 1978年女川原発、1980年前後泊原発立地
・・・を前提に議論

■「放射性物質による汚染がないのに、悪評で商品が売れなくなる被害」

－（放射線の身体への影響ではなく）、環境中の放射能汚染測定に関しては、「科学的」正確に測ることができる。

⇒ 「安全」「風評にすぎない」経済的被害を指した

⇒ 「うわさ」はもともと関係ない。問題にされていない。

3 東日本大震災の風評被害

- ◆ 原発周辺(相馬、南相馬、いわき)の物流停滞
 - 【相馬、南相馬、いわき／1F周辺】
 - 現実的課題としてのガソリン不足→だんだんと収束
- ◆ 農産物・海産物の風評被害
 - 【北関東・福島】→【福島・東北】
 - ≪放射線量≫ → ≪イメージ≫
 - 茨城ほか東北太平洋岸の海産物の風評被害
- ◆ 災害がれき・人への風評被害の問題
 - 【福島】≪放射線量≫ → 【東北】≪イメージ≫
 - 仙台住民へのスクリーニング、陸前高田の松、瓦礫

風評被害と「許容量」

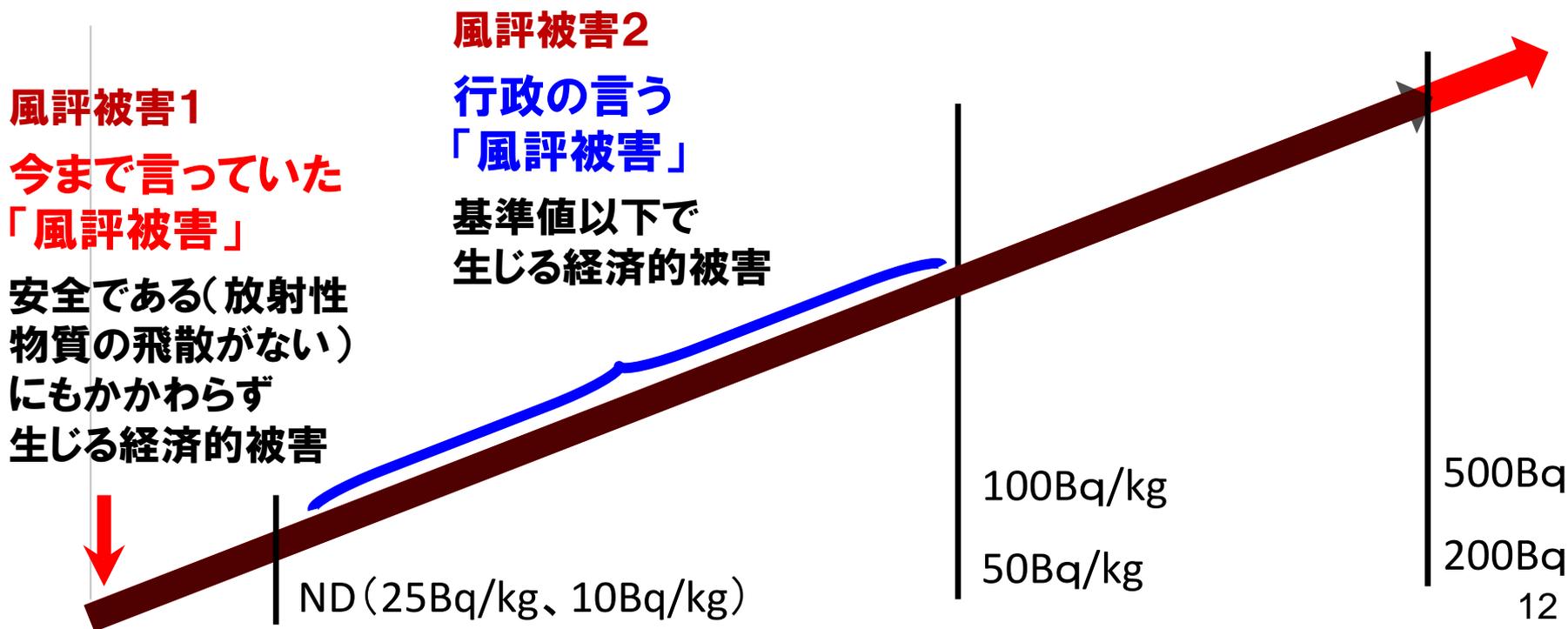
直後の風評被害と今の風評被害 安全の価値観

「汚染なし」から「暫定規制値」へ、そして「ND」の状態へ

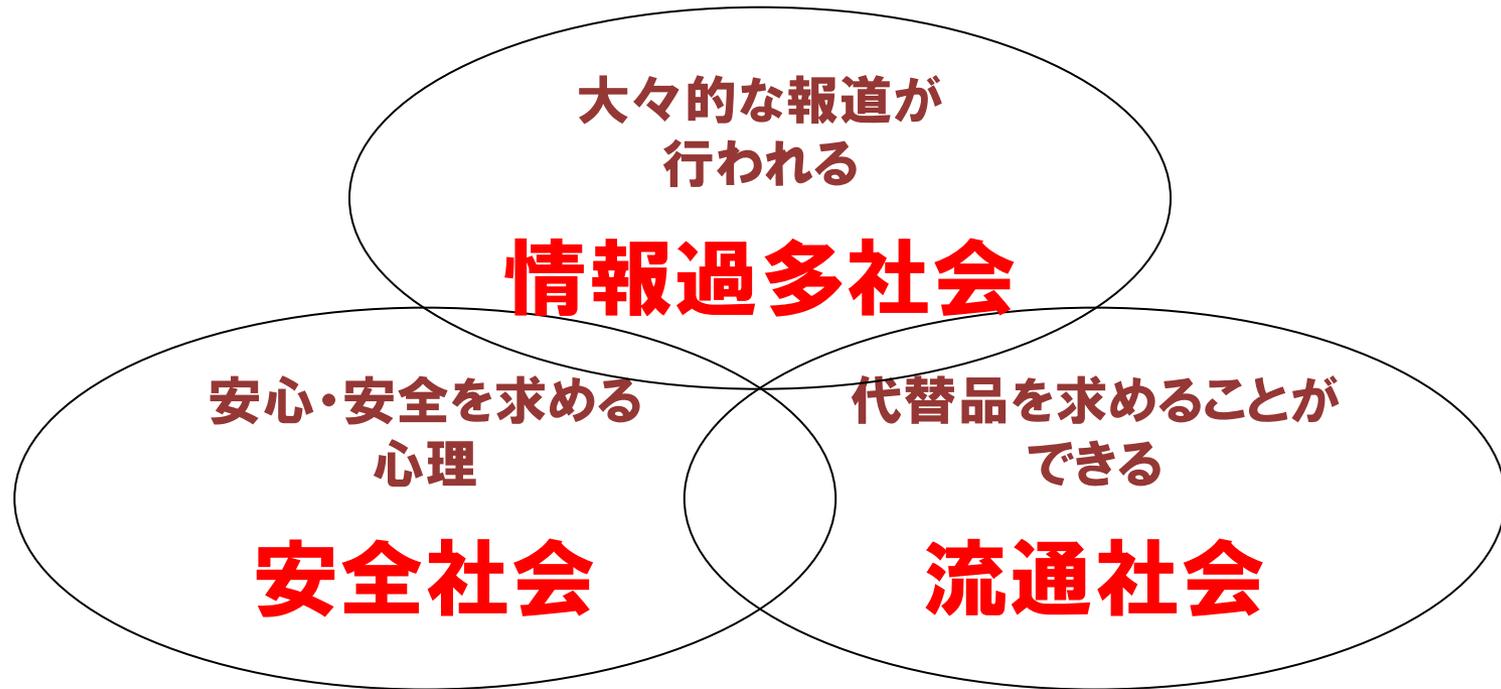
※ もともとは、「安全を前提に経済的被害が発生するもの」

※ 本来の課題：許容量

「有害さを我慢する」量＝どこで社会的合意をとるか



4 風評被害の原因



- **メディア**:きちんとした正確、詳細な情報を伝える
ブランドイメージの回復
- **流通**:徹底した放射線量測定とトレーサビリティの確立。
市場、卸、代理店、仲介事業者への説明
- **安全**:社会として合意しうる基準値の確立

Fact or Image?

- 2012.5.12 産経新聞



Fact or Image?

- 2012.5.12 産経新聞



Fact or Image?

- 2012.5.12 朝日新聞



メディアの課題

- **事故への無理解**

- 政府、地方自治体、メディア、受け手

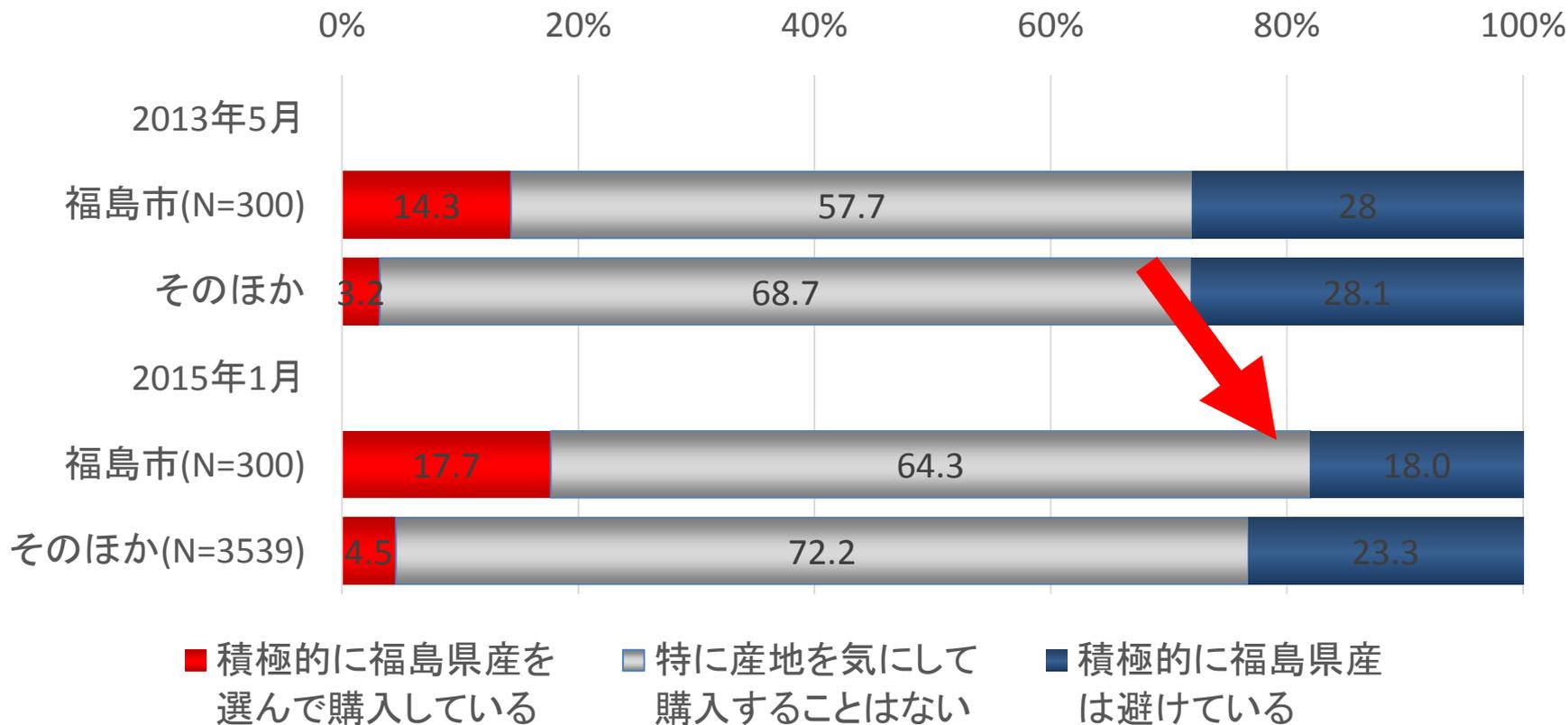
- **メディアの課題**

- 社会問題の掘り起こし＝悪いイメージの報道
- 関心度の低下
- 放射線災害の知識・理解の欠如、記者の異動
- ハイコンテクストへの理解のなさ
- 全国メディアの「問題提起」と県メディアの「復興」

- **受け手の課題**

- 関心度の低下
- 放射線災害の知識・理解の欠如（関心の闘争）
- 誤解とその定着

食材に対する意識「福島県産」への抵抗感

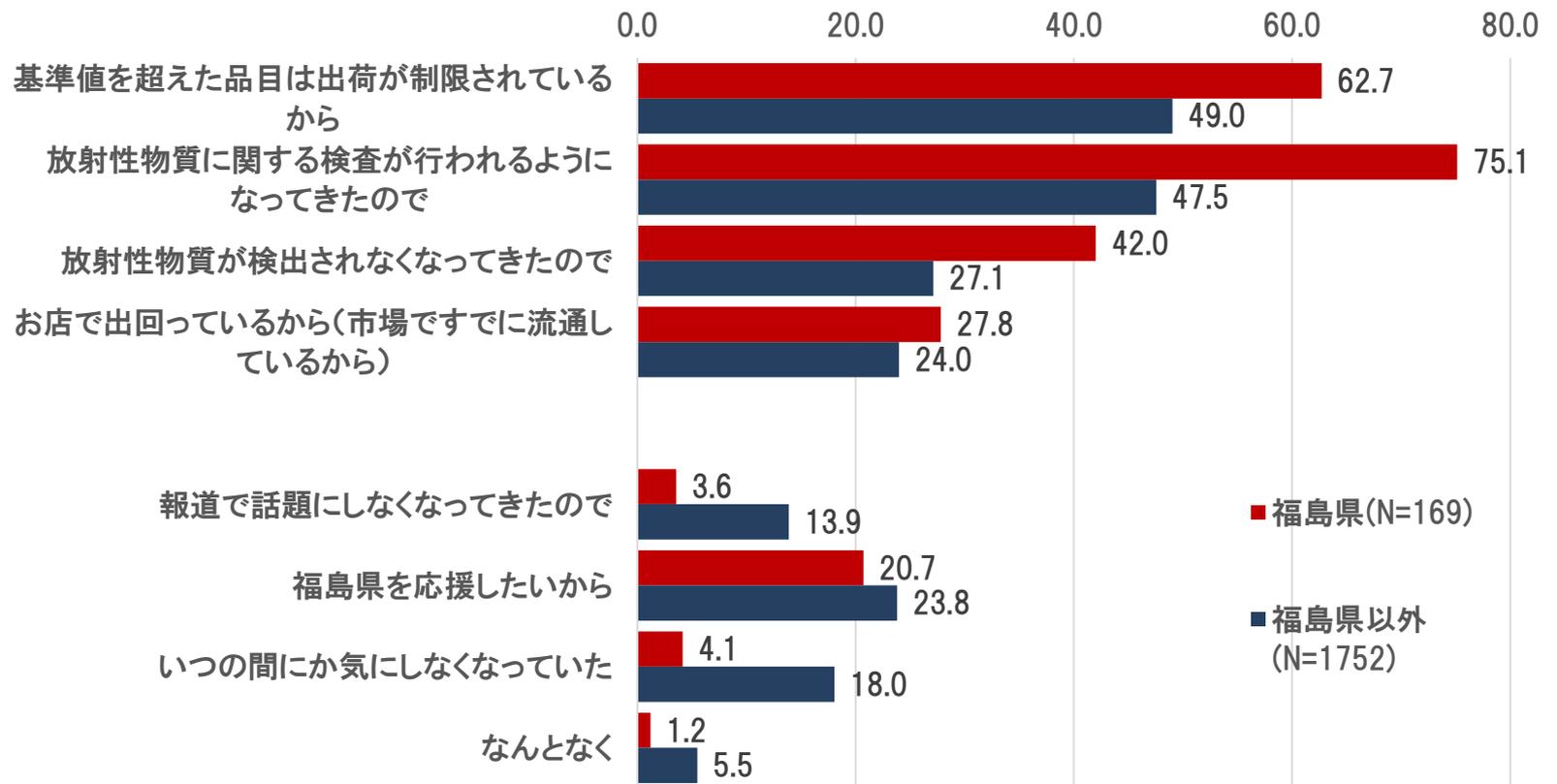


- 福島県産を拒否する人の割合は減ってきている。
- 福島県内で、その変化は大きい。

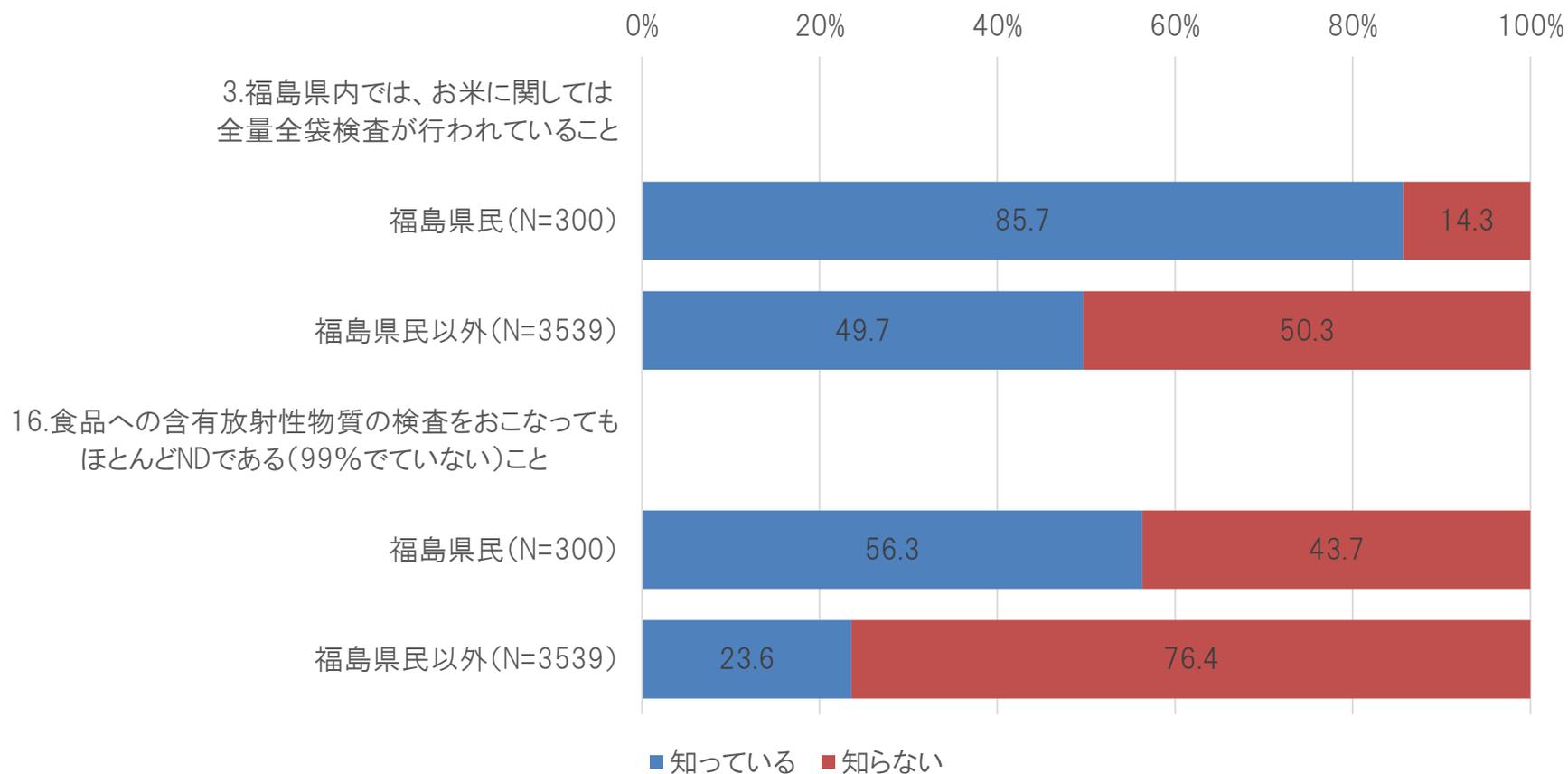
モニタリング検査の意味：不安が和らいだ理由

「放射性物質に関する検査が行われるようになったので」

「出荷が制限されているので」不安が和らいだ



検査体制の周知：不安が和らいだ理由



「風評被害」の段階論

プロセス1	プロセス2・3	プロセス4
<p>集会的増幅 ー社会で、不安が 拡大していく段階ー</p> <p>◎ 一般消費者 ↓ ○ 流通業者・関係者 ◎ 消費拒否層</p>	<p>組織的増幅 負のスパイラル ー少数意見の増幅ー</p> <p>△ 一般消費者 ◎ 流通業者・関係者 ↑ ◎ 消費拒否層</p>	<p>自己成就 ー払拭できない神話が 「事実化」し定着ー</p> <p>◎ 一般消費者 ◎ 流通業者・関係者 ↑ △ 消費拒否層</p>
<p>検査の不信感 科学的な真偽への疑問</p>	<p>検査の理解・周知 科学的な問題はなし 検査の解除の問題</p>	

プロセス1:「風評」の集合的増幅

[第一段階 「風評」の集合的増幅] 2011.3～2012.3

- **報道量は増大。**
 - 世の中のあらゆるメディアが批判を行う
 - 何か問題あれば、すぐネットで書き込みがある
- **科学的に何が正しい情報なのか不明**
- **理不尽な批判を受ける**
 - 事実関係が不明
 - 科学的に正しいことがあまり対抗策として意味をもたない
 - リスクコミュニケーションが効かない

この時期の対応が関係者にとってトラウマになる。

この時期に決めた基準値、手法がそのまま残存する。

プロセス2: 「風評」の組織的増幅

[第二段階 「風評」の組織的増幅]

- **報道量は減少。**
 - すでに大勢の人々は「福島県産」を拒否していない
- **学校給食、修学旅行、行政のクレーム対応**
 - 市場関係者、旅行代理店、学校関係者が少数者の意見を増幅。
 - ブルウィップ効果（遊牧民が家畜を導くときに使うムチ）サプライチェーンの上流にいけばいくほど長期の需要を予測する必要があるので過剰に反応。
- **クレーム、ヘイトスピーチ、“disる”**
 - 復興支援のイベントを支持している。
 - 公設市場での給食の意味の拡大

「少数者の影響力」 割合よりも量が意味を持ち、過剰反応。

プロセス3: 「風評」の自己成就

[第三段階 常態化①負のスパイラル]

- **報道量減少。だが、関係者は関心が高く、敏感に反応。**
 - － クレームをいう人が出てこないとしても、行政、学校関係者、流通業者、旅行代理店が、一部の人の声を先回りして対応。
 - － 「『人々が安全か危険かの判断がつかない状態では食品・商品は忌避される』に違いない、だから取引は遠慮しよう」
 - － 中間貯蔵、燃料棒取出し、汚染水など報道の影響
- **仲卸から小売りの段階で、量販店で、拒否が継続**
 - － 一部の消費者のクレーム、問い合わせ、説明が大変なので。あえて先回りして、商品を置かない。再開しない。
 - － 店舗の売り場の回復「棚の回復」

流通業者(仲介業者)の思い込みによる負のスパイラル

※ 相手を慮る対応と対応の遅れ ※契機が必要

プロセス4:「風評」の自己成就

[第三段階 常態化②相手のある消費による負のスパイラル]

- **ギフト・贈答品・嗜好品(お中元・お歳暮)。e.g.果樹**
- **他者のための消費**
 - 「贈答者(購入者)が大丈夫と思う」は関係ない
 - ギフト・贈答品を受け取る人がどう思うか。
 - その受け取る人の家族がどう思うか。
- **贈答者やそのラインナップを考える小売店が先回りして敬遠。**
- **代替可能性のある商品・サービス、生活必需品ではない商品、嗜好品、サービスに必ずつきまとう問題。**

消費者の思い込みによる負のスパイラル

課題2:基準値(許容量)問題

- **基準値の乖離**

基準値で議論している人は、東京のメディア、リスクコミュニケーションの専門家に顕著。

- **全国基準の「リスク・コミュニケーション」**

– 2012年基準値の議論 (100Bq/kg、50Bq/kg)

- **福島県内**

– NDの議論 (25Bq/kg、12Bq/kg、10Bq/kg)

- **2011年の「自主基準」の固定化、意識の固定化**

– (平成24年9月) 10Bq/kg、事実上の県内産拒否

– 2011年以降、お互いに議論をしない、相手を慮る「睨めっこ」状態のまま事実化。

– 地産地消できない (納入再開は簡単にできない)

課題3：流通業者の「風評」問題 事実化

- **生産者、組合、流通業者、量販店など農業関係者での「神話」**
 - 「地元の給食で使われないのに、県外の人が食べようとするはずがない」
 - 「子育て世代が強硬に拒否感が強い」 → 福島で若干
 - 「西日本の不安感が強い」 → 事実と反する
 - 「露地ものは不安視されている」 → 福島で若干
- **生産者への買い叩き**
 - 消費者に関する「神話（ありもしない、事実とは異なる話）」が農業関係者の間で共通する言説となり、価格下落、取引量減少という現状を是認する
(流通の「賠償」は困難)

対策①ターゲット：県内と県外の戦略

福島県内の人

福島県外の人

放射線の知識の取得

= 知識があった上の不安

理科

放射線の知識の欠落

=イメージによる不安拒否

東北の地域・地名の理解

=線量分布の理解

=地理的特徴を知った上の不安

社会

東北の地域、地名の無理解

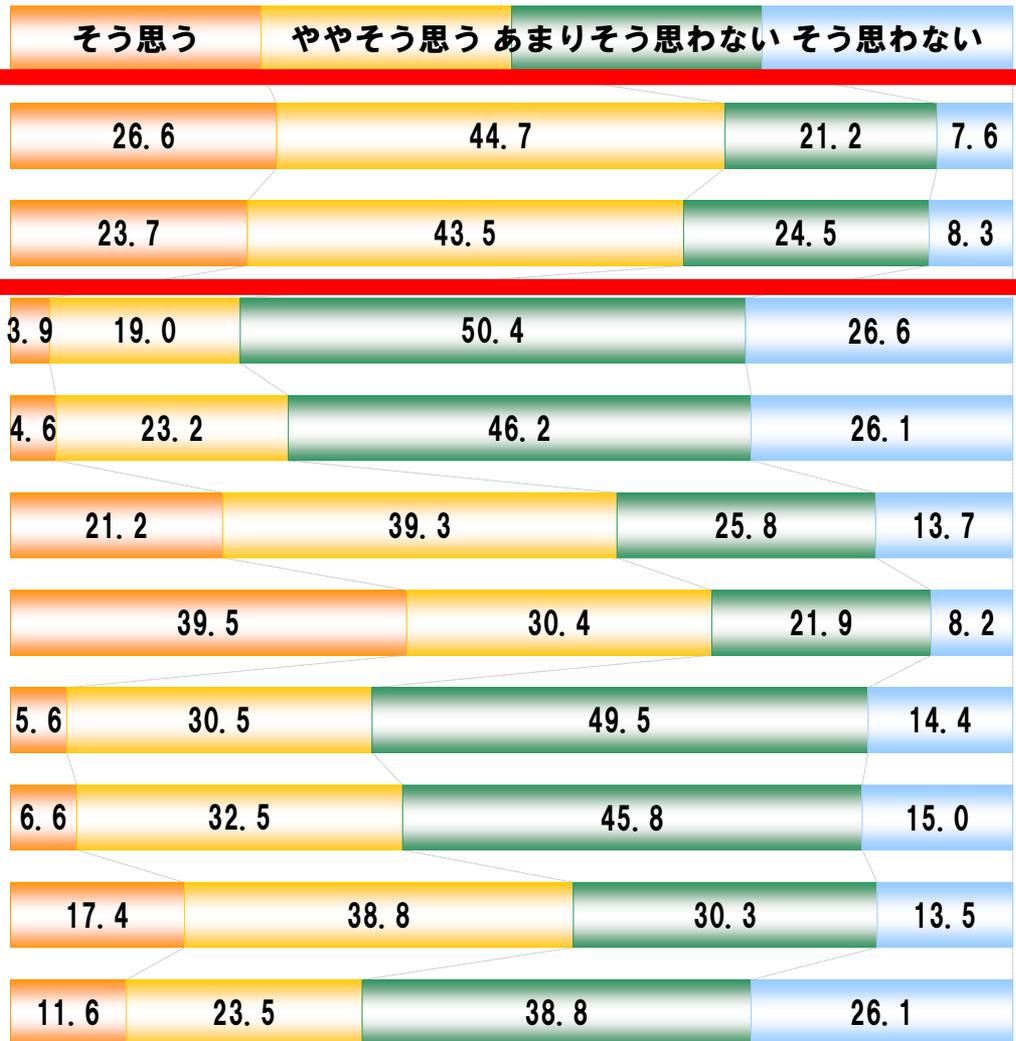
=線量分布の無理解

=地理を知らない上での不安

- 同じメッセージ／同じ知識を前提とした情報発信が困難。
- 異なった戦略が必要

情報発信の仕方を考える

- どのような情報があればより積極的に購入したいと思いますか



『イメージ戦略』よりも、『安全の根拠』をきちんと示すこと

- 「米の全量全袋検査」**「現在、野菜から測定される放射性物質は検出限界値以下であること」**を知らない人ほど福島県産を忌避。
 - **積極的に福島県産を購入している人は不安感が低く、「JAの検査」「米の全量全袋検査」を知っていることが大きく影響している。**
- 「米の全量全袋検査」の実施、「現在、ほとんどの農産物の検査結果は検出限界値以下(ND)であること」という事実をもっと周知することが通常通りの購買行動に戻すためには重要。

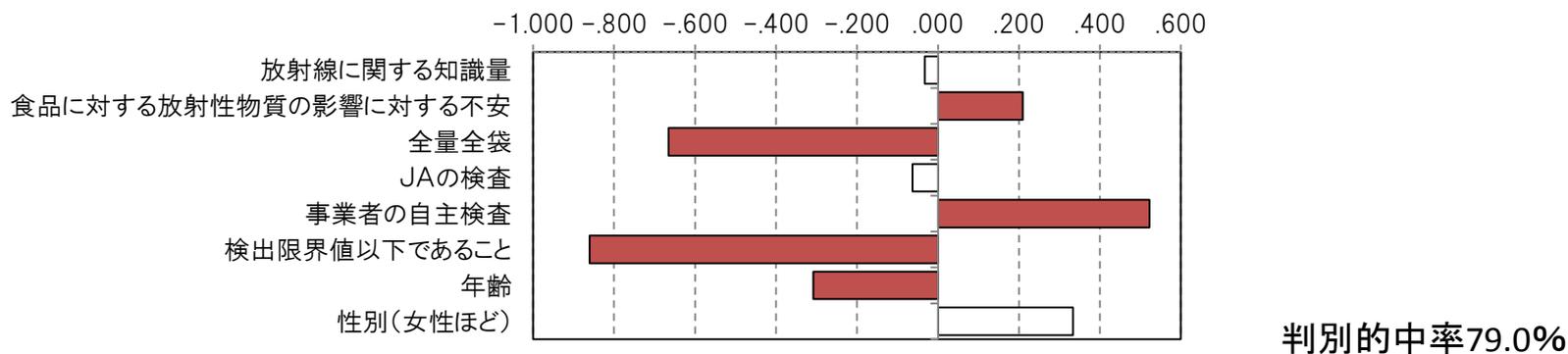


図2 積極的に福島県産を避けている人を予測するロジスティック回帰分析

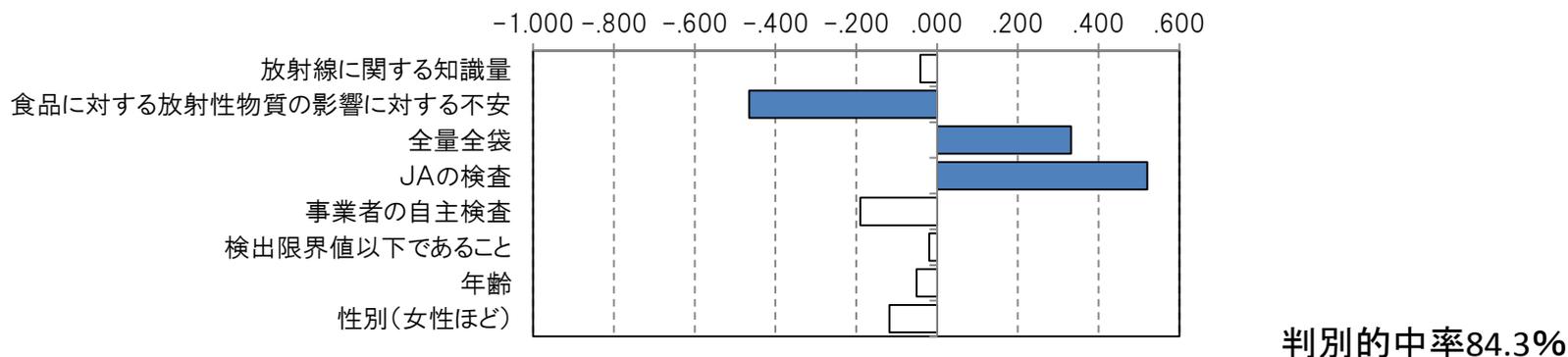


図3 積極的に福島県産を購入している人を予測するロジスティック回帰分析

対策②「事実」を知らせていくこと

- 放射線の身体への影響というより、現在の放射線量を理解させていくこと
- 「検査を行っている」事実を積極的に出すこと
 - モニタリング、全量全袋検査の意味を伝える
 - 必ずしも検査の詳細な情報の必要はない
(既に気にしない人も多い、HPの閲覧者は少ない)



福島市地域の恵み安全対策協議会
モニタリングセンター(JA新ふくしま)

対策②「事実」を知らせていくこと

全袋検査の結果(2016年5月9日時点)

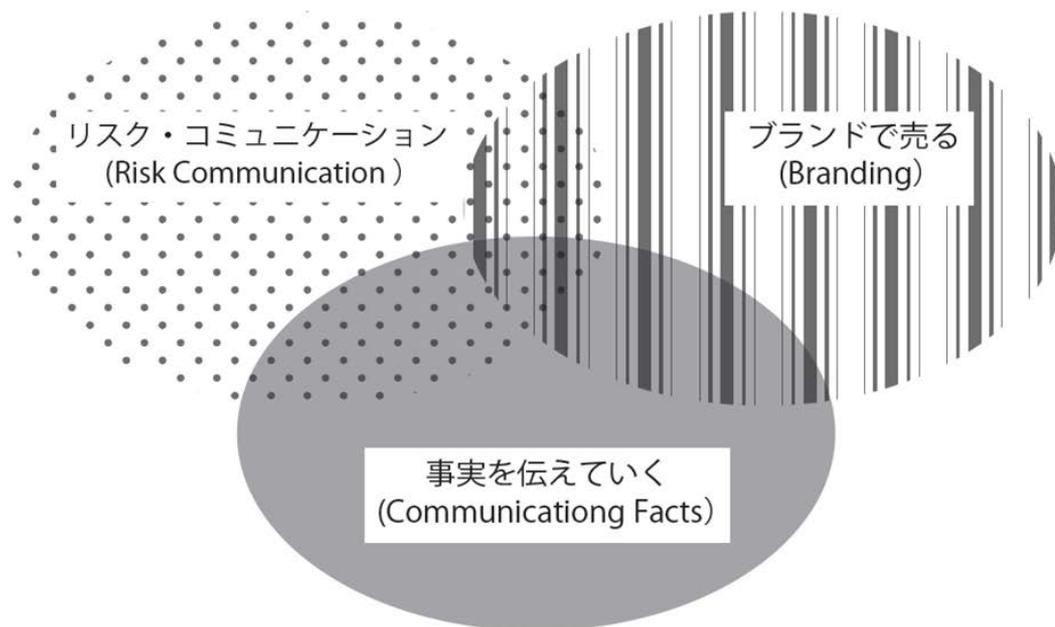
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
25未満 (Bq/kg)	10,323,561 (99.78%)	10,999,206 (99.93%)	10,900,805 (99.98%)	10,483,993 (99.99%)
25以上 (Bq/kg)	20,357 (0.2%)	6,484 (0.06%)	1,904 (0.02%)	645 (0.01%)
50以上 (Bq/kg)	1,678 (0.016%)	493 (0.0045%)	12 (0.0001%)	13 (0.0001%)
75以上 (Bq/kg)	389 (0.0038%)	323 (0.003%)	2 (0.00002%)	1 (0.00001%)
100以上 (Bq/kg)	71 (0.0007%)	28 (0.0003%)	0	0
合計	10,346,086 (100%)	11,006,534 (100%)	10,902,694 (100%)	10,484,652 (100%)

出典:「ふくしまの恵み安全対策協議会」より

<https://fukumegu.org/ok/kome/>

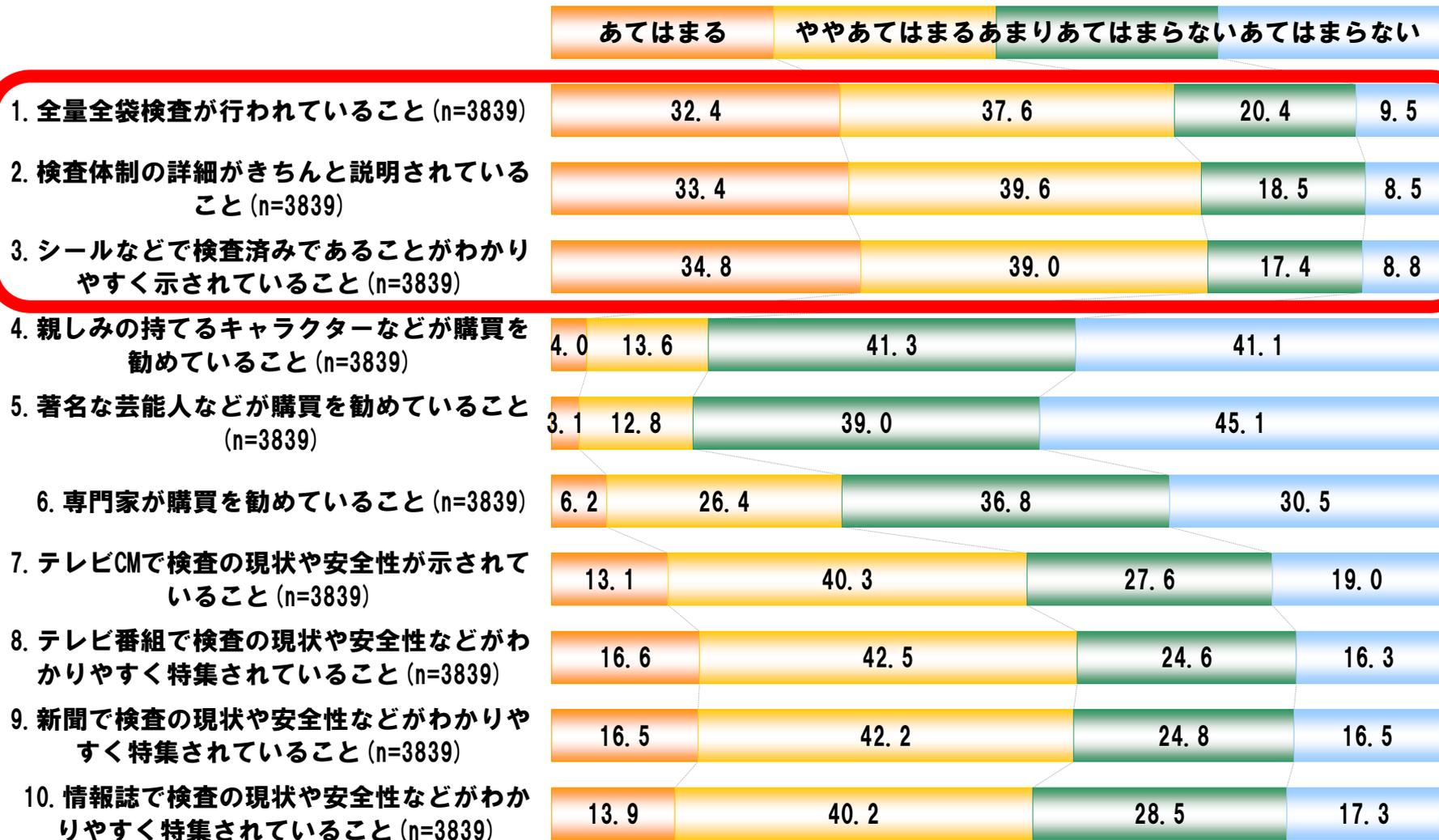
対策②「事実」を知らせていくこと

- 「ND」の理解率、「検査」「検査結果」認知率
- ほぼ「検出限界値以下」であるという事実を伝えていくこと
 - N.D.（検出限界値以下）の理解が不足。
 - 「 μ Sv」
 - 「Bq」
 - 内部被曝
 - 検査体制
など



対策②「事実」を知らせていくこと

: 情報発信の仕方を考える





いわき見える化プロジェクト

見せます! いわき情報局

いわき市見せる課
できました!

見せる課
バスツアーについて

いわき食材
おすすめレシピ

放射性物質
測定データ

こうやって
測っています

出荷制限等
はこちらです

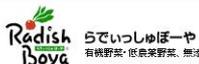


いわき市見せる課できました!

「見せます!いわき情報局 見せる課」(通称・見せる課)が2012年10月1日に始動!
いわき市の農林水産業・観光業の復興のために、皆さんが知りたい情報をどんどん
お届けします!

プロジェクト2年目の「見せます!」

いわき市は、2011年10月1日、市内の農業者ら約1000人が一か所に集まって「見せます!いわき」と
プロジェクト開始を宣言するテレビCMを皮切りに、いわき産作物見せる化プロジェクト「見せます!いわ
き」を展開してきました。一方向的に安全を語るのではなく、食の安全・安心を消費者自らに判断してもら
おうと、このサイトを通じて農作物や農地、水道水、大気中の放射線量を公表してきました。また、い



| 産地直送 | プレスリリース | 現地・社会活動 | 採用情報 | お問い合わせ | プライバシーポリシー | サイトマップ |



らでいっしゅぼーやの宅配サービス申し込み

メンバーズログイン

初めての方へ
(宅配サービスの紹介)

ぱれっと・元気くん
(配達員のご紹介)

安心とおいしさの理由

野菜レシピ&情報

会員向けサービス一覧

企業情報

TOP > 安心とおいしさの理由 > 放射性物質検査体制

らでいっしゅぼーやの放射性物質検査体制

「見えない放射性物質だから」
ご自身で判断できる確かな情報をお届けします。

- 1/2 自主規制値を国より低く >
- 検出下限を明確にします >
- 第三者検査機関の検査について >
- 放射性物質検査機器と頻度 >
- 徹底した情報公開 >
- 17都道府県 全産地・全品目の検査結果を公開 >

放射性物質検査体制TOP | 第三者検査機関の検査について | 徹底した情報公開 | 放射性物質と食品の基礎知識

らでいっしゅぼーやの放射性物質検査の基本的な考え方

ふくしま新発売。

新たな未来へ向けて再生し始めている福島県を全国の皆様へ伝えていきます。

このサイトは福島県が運営しています



◆リンク集 ◆お問い合わせ ◆English(Monitoring info)

| プロジェクトサポーター | コチら編集部 | このサイトについて

- 農林水産物モニタリング情報 Monitoring Info
- 新発売ブログ New-Fukushima Blog
- 野菜ソムリエ藤田が開く Vegetable Sommeliers
- ふくしま動画放送局 New-Fukushima Broadcasting
- 「がんばろう ふくしま!」応援店一覧 Support Shop List
- イベント情報 Event Info

「ふくしま 新発売。」は

未来へ向けて動き出している ふくしまの今と農林水産物のモニタリング情報検索サイトです。

ふくしまの新産産をお届けいたします。
ふくしま新発売。

雄岡沼



農林水産物モニタリング情報 Monitoring Info in English

品目から検索 Search by category

地図から検索 Search by Area

- 出荷制限等一覧 List of shipping restrictions, etc.
- 新しい基準値について Values for new regulations
- モニタリング検査に関する取組み Monitoring inspection information
- よくあるお問い合わせとその回答 Questions and Answers

Information 2013.05.02 イベント情報追加しました

一覧へ >

新発売ブログ

個性豊かな情報員たちが、福島と首都圏から地域の最新情報をいち早くレポート!!

シリーズ連載 里物の田から

シリーズ連載 稲作の一年

ブログ一覧へ >

野菜ソムリエ 藤田が聞く!!

ふくしま 動画放送局

動画一覧へ >

北九州「海の幸」「山の幸」を愛するナビ

| English | 中文 | 한국어

Google カスタム検索



- ホーム
- トピックス
- 北九州「海の幸」「山の幸」を愛する会
- 風評被害防止ネットワーク
- 安全安心情報
- 災害廃棄物(がれき)の広域処理について

北九州「海の幸」「山の幸」を愛する会

風評被害防止ネットワーク

北九州市(北橋健治市長)メッセージ

詳しくはこちら >

市内農林水産物から放射性セシウムは検出されていません。

詳しくはこちら >

石巻と北九州市の放射線量はかわりません。

詳しくはこちら >

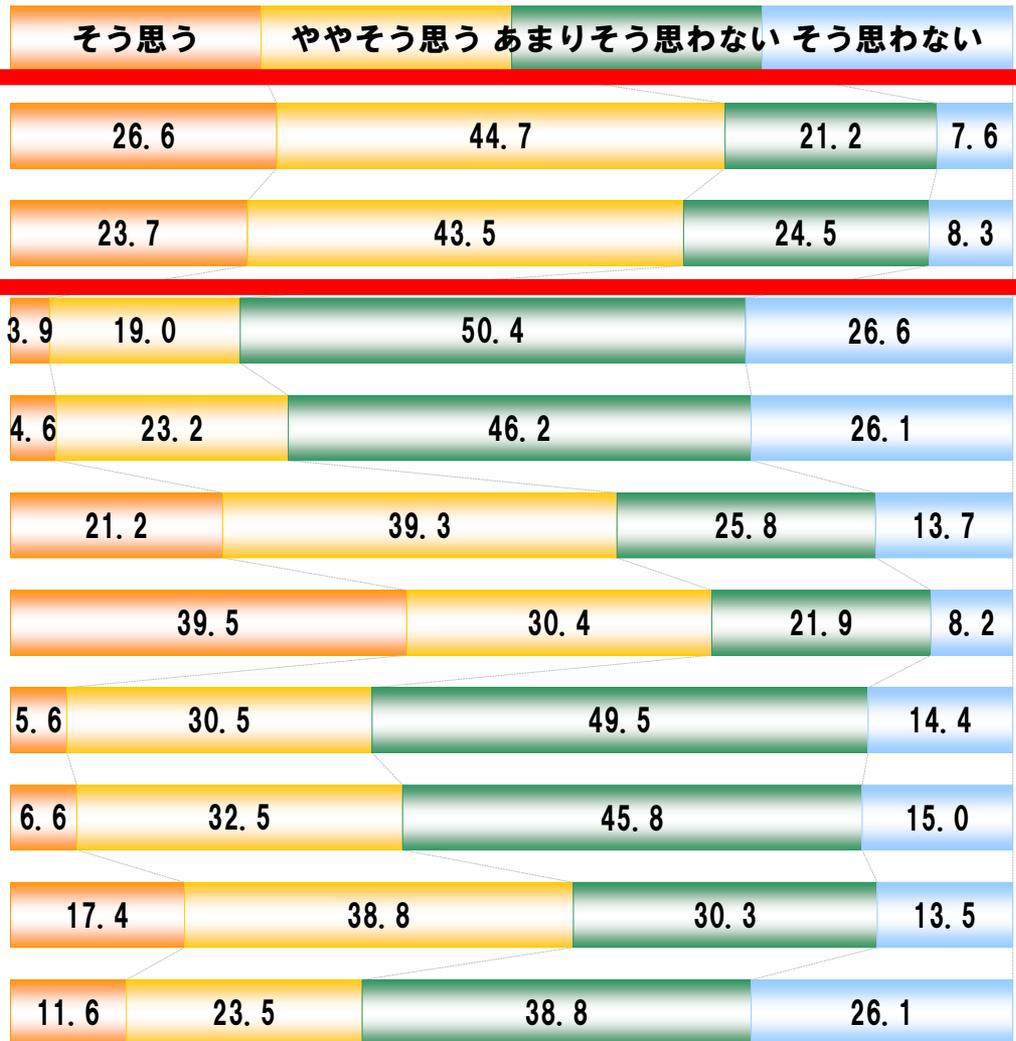
- 中央卸売市場の放射
- ごみ焼却工場の放射
- 私たちの日常生活に



対策②「事実」を知らせていくこと

：情報発信の仕方を考える

- どのような情報があればより積極的に購入しようと思えますか



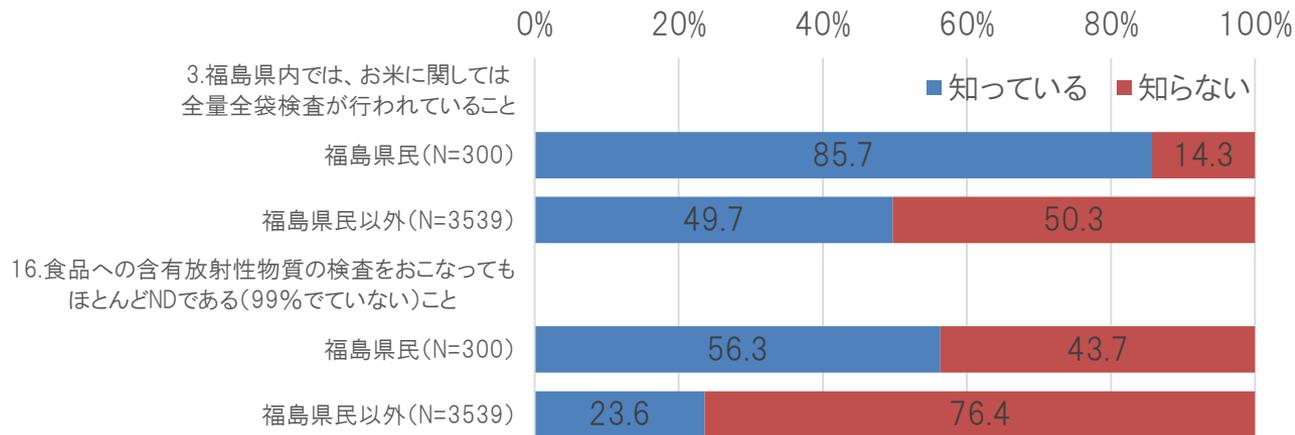
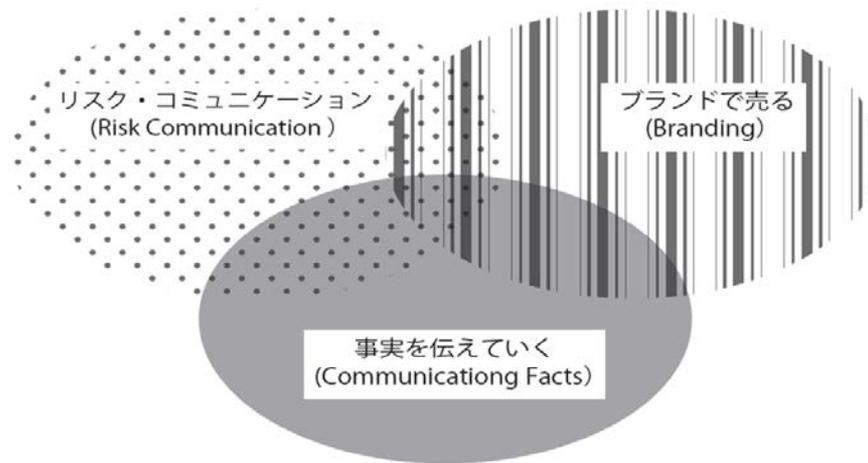
『イメージ戦略』よりも、『安全の根拠』をきちんと示すこと

対策③リスク・コミュニケーションとの区別

- **リスク・コミュニケーション、人の心理の問題？**
 - 「放射線教育」は長期間の話。
 - 人々が「リスク」について正しい認識をすれば風評被害は解決する（当たり前）。解決策か？
- **2割の「極端な層」対策と風評対策を区別する**
 - 念のため買わない人は「科学」では説得できない。
 - 放射線以外のことや農薬などはどうでもいい
 - 本当に危ないと思っている人、「ツイッターなどで不安をつぶやく人、中傷する人」をなくしても、風評被害は解決しない。

6年目の風評被害の課題

- 科学、イメージよりも「事実」を伝える



6年目の風評被害の課題

◎6年目の風評被害：事故直後のイメージからの脱却

- **流通・産地の取り組み—特殊な検査体制—**
 - 検査体制：福島だけ体系立った高レベルの検査
 - 検査結果：2014年度以降、米の基準値超えはゼロ
 - 営農再開、警戒区域の縮小、再燃の恐れ
- **流通段階の課題—買い叩き—**
 - 消費段階の問題から流通の問題
 - 中食、外食 「食べて応援」から「業務用米」へ
 - 消費状況（85%）の周知と流通で生じる問題の払拭
- **次の検査体制の見直し—周知不足のままの賠償削減—**
 - 科学的に基準値以下が証明されるだけではだめ
 - 適切な情報提供（低減対策・全量全袋など）の必要
 - その前段階での見直し論

6年目の風評被害の課題

農業：流通構造の変化

- 「長期化」の被害：業務用への変化、棚の取り戻し
- 賠償金の問題：全量全袋検査の縮小

漁業：長期的戦略の困難 ←農業の問題と異なる

- 試験操業の問題：5分の3の買取、漁獲魚種の制限(15魚種)
- 「長期化」の被害：加工の弱体化、市場の弱体化
相馬、久ノ浜、富岡、請戸の役割分担、後継者問題

観光：マーケットの変化

- 団体旅行客の減少
- 高齢化による縮小

観光資源の再開発問題 浜、中、会津の観光ルート分断

観光資源開発(海、桜・祭り、スポーツ・歴史)

6年目の風評被害の課題

理解 > **応援**
流通 > **心理、生産、消費**
事実 > **イメージ**
Risk Communication

- **産業構造**
 - 市場の信頼関係の再構築
- **科学的に正しい対策 ≠ 経済的に正しい対策**
 - 経済的なコストの負担 > 純粋な安全の問題
- **時間の経過**
 - 対話、議論のコスト